

令和2年度 大田区立矢口東小学校 自己評価 報告書

令和3年3月11日

○ 本校の概要

本校は昭和2年(1927年)に東京都荏原郡矢口東尋常小学校として開校以来、今年で92周年になる。卒業生は1万人を超え、親子3代にわたって矢東が母校という地域の人も多い。校地は東急池袋線から徒歩5分、多摩川線矢口渡駅からも10分の便利な場所にあり、多くは戸建てや小規模な集合住宅が建っている。大規模な集合住宅はなく、全校300名程の児童数がここ数年保たれている。小規模な学校のため丁寧な指導が可能であり、児童は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。本校の教育目標は「自ら学ぶ子、心豊かな子、たくましく育つ子」であり、知、徳、体のバランスの取れた教育を目指している。将来本校に在籍している児童が、しっかりと自立して社会に役立つ人間になれるよう、教育目標の実現に向け、全教職員が力を合わせて教育活動を行っている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価人数	コメント				
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教職員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が85%以上	4	○6月から始まった外国語活動は、新しいALTを迎え、指導が軌道に乗るまでやや時間を要した。2学期になって英語カフェを通して児童とALTが親密になり、外国語活動が充実してきた。 ○コロナウイルス感染予防対策の中で、講師を招いて「六郷とんぼ」を作成する「ものづくり」が実施できなかった。今後、講師を招かなくてもできるものづくりを検討したい。 ○感染予防対策をしながら、始めは高学年からタブレットを活用する授業を行った。2月から一人一台のタブレット端末が貸与されるので、家庭学習も児童自身で活用するスキルを身に付けさせていく。 ○コロナウイルス感染の疑いによる人権侵害やいじめ問題を取り上げ、「自分の大切さ」とも他人の大切さを認める」という人権意識を育てている。ソーシャルスタンスの意味についても理解し、新しい生活様式に慣れるように日々指導をしている。 ○体力向上全体計画は、「密」を避ける運動を取り組む。「一校一取組」運動や「一学年一実践」運動では、縄跳びの取組のみ実施した。(回答数287)	A	4	○コミュニケーション能力は、小学校で教える事大変な事だと思います。将来社会に出て必要な項目です。 ○コロナの影響で例年にならざるを得ない対応をしなければならぬ大変さを感じています。子供達も新しい生活にも対応していると感じます。自分にも良いところがあると思えるようになる体験が増えるといいですね。			
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教職員が行った。 3:80%以上の教職員が行った。 2:60%以上の教職員が行った。 1:60%未満であった。	3	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が80%以上	3		○様々な授業改善の機会がある中で、授業改善プランは、教科主任にかかる負担が大きい。担当者に負担が偏らないように学年→教科主任→教務主任→管理職の流れで改善プランを作成する。 ○ステップ学習シート(来年度からはタブレットへ移行)を保護者に知らせても、学習の到達度はあまり見えない。タブレットに移行の際は、持ち帰ったときに保護者が確認できるように。 ○学習補助員を活用した補習教室は、算数において定着が不十分な単元や計算力等をじっくり指導することができ、児童の学習への不安を軽減できている。 ○大田区学習効果測定の結果から、定着が不十分な教科および領域の授業改善プランを作成し、2学期以降の授業に反映させている。(285)	B	4	○学校登校が楽しければ授業も楽しいにつながると思います。そして学習能力を伸ばして欲しい。 ○学習を楽しいと思えることが良い学校生活につながると思います。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教職員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教職員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教職員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が85%以上	4			○今年度は、コロナ禍のため、小中一貫教育で生活指導を行うことができなかったが、昨年度同様に規範意識を高める授業や生活指導を行っている。 ○道徳授業地区公開講座を実施する予定だったが、緊急事態宣言延長のため、公開はできなかった。道徳の授業を校内一斉に行い、「正直、親切、友情や思いやり、個性の伸長」について考える題材を選び、自己有用感や自己肯定感を育てている。 ○学校生活調査やHyperQU、個人面談等を通して、いじめや問題行動、登校しぶりが見られた場合、当該児童の不安や悩みを担任や保護者、スクールカウンセラーが聞き取り、事態の早期発見・早期対応をし、心のケアを行う。また、教育センター、子ども家庭支援センター等の関係機関について対策を講じる。(282)	C		1	○学校の小規模だからこそ学年問わず色々な先生に気を配ってもらえるのは矢東の良い特徴だと思います。
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教職員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が70%以上	2				○学校生活調査やHyperQU、個人面談等を通して、いじめや問題行動、登校しぶりが見られた場合、当該児童の不安や悩みを担任や保護者、スクールカウンセラーが聞き取り、事態の早期発見・早期対応をし、心のケアを行う。また、教育センター、子ども家庭支援センター等の関係機関について対策を講じる。(282)		D	
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学年一実践」運動を実施する。	4:全教職員で行った。 3:80%以上の教職員で行った。 2:60%以上の教職員で行った。 1:60%未満であった。	2	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が60%未満	1	○学校生活調査やHyperQU、個人面談等を通して、いじめや問題行動、登校しぶりが見られた場合、当該児童の不安や悩みを担任や保護者、スクールカウンセラーが聞き取り、事態の早期発見・早期対応をし、心のケアを行う。また、教育センター、子ども家庭支援センター等の関係機関について対策を講じる。(282)	D	0						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す